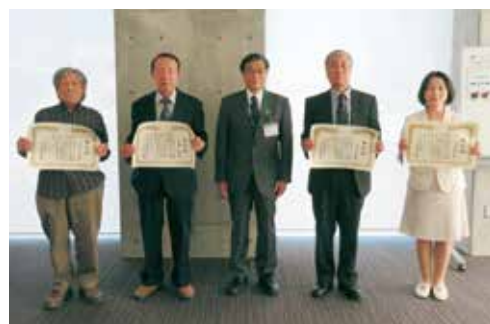




●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



新潟県公民館連合会
永年勤続者表彰
10月7日 燕市役所

公民館の発展に寄与した人を表彰する「新潟県公民館連合会 永年勤続者表彰」の表彰状の伝達式が行われました。今年度、燕市からは4人が受賞。おめでとうございます。



青空のビッグスワンで
「燕市デー」開催
10月9日 ティカランドワンスタジアム

第33節レノファ山口FC戦は燕市デー。燕市の特産品販売のほか、ギネス認定のジャンボスプーン・フォークの展示、ふるさと納税のPRなどを行いました。



お菓子をくれないと
イタズラしちゃうぞ
10月9日 杉名児童館

思い思いの飾り付けで「魔女のぼうし」を作りました。最後は、お決まりの「トリックオアトリート」の掛け声でお菓子をもらい、大満足の子どもたちでした。



ユーモアたっぷり
シゲタサヤカ絵本原画展
10月15日 燕図書館

絵本作家・シゲタサヤカさんの絵本原画展。代表作である『まないたにりょうりをあげないこと』と『オニじゃないよおにぎりだよ』などが展示されました。



外国人のみなさんと
楽しく交流しました
9月23日 市民交流センター

市内で暮らす外国人と互いの理解を深めるための交流会を開催。正しいごみの出し方について学んだほか、自分の国や日本での生活について歓談し、親睦を深めました。



実りの秋！
美味しいお米を収穫だ
9月25日 吉田ふれあい広場西側水田

カラフルな稲で「つばめのおもてなし」を見事に表現した田んぼアート。豊かな実りに感謝しながら老若男女が稲刈りイベントで汗を流しました。



救急隊員を対象に
「手話講座」を開催しました
10月2日 消防本部

聴覚の不自由な人の気持ちを理解し、救急現場で対応するための手話講座を開催。救急隊員は実際の現場活動を想定し、シミュレーション訓練を受けました。



青少年健全育成県民会議
会長表彰
10月6日 燕市役所

青少年健全育成成功者として、燕市分水地区青少年育成市民会議会長の今井耕治さんが表彰されました。今後ともあたたかく子どもたちを見守ってください。

今月の一品

越北の鴻都長善館

柿園先生の詩

2代館主鈴木暢軒の長男・柿園が長善館の塾生時代に詠んだ漢詩を紹介します。

我が国及び洋漢。圖書の多きこと雲のごとし。忠義仁信の事なり。六経の文に龍在す。

経史三千巻あり。智愚は五尺の身なり。嗚呼吾が孫子。確守して沈湮すること勿れ。

湿気黄梅の節。燥乾三伏の時。子孫宜しく鄭重なるべし。蠹魚の私に化する莫し。

巴調

右亡き伯兄柿園明治10年9月録した所を長善館の蔵書目の巻尾に見る 昭和19年8月21日 虎雄誌す



この詩は柿園が塾生時代にノートに書いておいたものを、弟の鈴木虎雄（昭和36年文化勲章受章）が長善館の蔵書の中から見つけ、書き写したものである。柿園の学問に真摯に取り組む姿勢や、人間として、教師としての心構えがしるされている。

柿園は、我が国には多くの洋書や漢文の書物があふれており、中でも儒学の根源となる経書などを学ぶ経学や、国史などの史学の学問が大切であると述べている。また、湿気の多い季節や真夏の暑い季節でも勉学に精励して、幅広い見識や心の優しさを身に付けなければならぬとしている。この年、柿園は上京して勉学に励んで学問研究を深め、数年後には教師としての資質を身につけて帰ってくる。優れた教育者として先進的教育を実践し、地域や国家に貢献する多くの人材を送り出した、教師柿園の姿がしのばれる。

※六経…儒教の書物

※蠹魚…本や衣服を食いあらすといわれる昆虫

※巴調…自作をへりくだって言う語・卑俗な詩



大河津分水コラム 次の100年に向けて 通水10周年の可動堰

現在の可動堰は3代目であり、10年前の2011年11月23日に通水しました。

水門の形式は、円を描くようにゲートが動く「ラジアルゲート」。ラジアルゲートとしては日本最大の大きさで、長さ30メートルのゲートが6門と、ゲートを開閉するシリンドラーが設置された7つの堰柱を合わせて、堰長は293・1メートルになります。

大河津分水に流れ込んでくる水量に応じてゲートを開閉しますが、タイミングが良いと堰き止めていた水を流す瞬間に立ち会うことができます。可動堰に架けられた黄色い橋の両端には「大河津分水路」「可動堰」と記されたプレートがコンクリートの柱に埋め込まれています。その柱は2代目の可動堰の一部を切り取ったもので、側面から見ると、切断痕を確認することができます。

また、「大河津分水路」「可動堰」のプレートの文字を書いた人の名前も刻まれていますので、ぜひ確かめにお越しください。



▲右岸側から見た可動堰

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.44



初めまして。9月から地域おこし協力隊として着任した森瑞希と申します。出身は千葉県ですが、大学生のときに「つばめ産学協創スクエア」でのインターンシップに参加したことで、燕市との縁ができました。インターンシップで触れた燕市の技術力のすごさに感動したことなどがきっかけで燕市のことが好きになり、ご縁が続いたことで、このたび移住コーディネーターとして活動することになりました。

インターンシップで出会った皆さんとは今でも繋がりがあり、今回写真を一緒に撮らせていただきました！一番左が今回着任した森です。街でみかけたらぜひお声かけください。燕市のこと、新潟のことについて教えていただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いします。



燕市地域おこし協力隊
もり 森 瑞希（写真左）